1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070701331		
法人名	医療法人　香林会		
事業所名	グループホーム螢の郷（ユニット名　西、東ユニット）		
所在地	北九州市八幡西区香西3丁目10－17		
自己評価作成日	平成26年8月21日	評価結果確定日	平成26年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡県福岡市博多区元町１－６－１６　TEL:092-589-5680　HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】(Altキー+enterで改行出来ます)

螢の郷は文字通り、近くを流れる黒川で、季節になるとたくさんの蛍を観る事が出来ます。毎年入居者とスタッフで、美しく優雅に舞う蛍を鑑賞しています。螢の郷は、開業以来12年の月日が経ち、入居者も高齢化し、要介護度も重度化して、以前よりも多くの介護を要するようになってきている。そのなかで、職員みんなで、入居者の尊厳、その人らしい生活をかんがえ、ケアにあたっている。また、職員も希望をだして休みがとれるようにして、笑顔で介護にあたれるようにとりくんでいる。職員も入居者も笑顔が見られ、笑い声が聞こえてくる。・・・それが螢の郷です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「蛍の郷」は近隣にある香月中央病院を母体とし、系列の老健と同敷地内に建てられた2ユニットグループホームである。目の前の香月中央公園や、名前の由来でもある近くの黒川での蛍祭りなど、自然豊かな環境に囲まれている。地域からの信頼も厚い母体病院は夜間でも受入体制が整い、常に連携をとることで健康管理に充実した支援を行っている。アットホームな雰囲気を大事に、入居者と一緒の時間を過ごし、食前体操や口腔体操も念入りに取り組んでおり、入院の際にも病院との連携をとって、早く退院してもらい認知症が進まないようにリハビリにも積極的である。地域との関わりも市民センターを活用して進めており、春祭りは地域にも開放して、系列の老健と一緒に開催している。今後も母体病院と共に、地域に根づいた福祉の中心事業所として発展が期待される事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目:25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目:20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目:40）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目:38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目:51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目:32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目:30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目:9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目:2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目:4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目:11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニットごとにつくり、ユニットに掲示してある。	グループホーム独自の理念を元に、職員が話し合って作ったユニットごとの理念もあり、ホールに掲示されている。勉強会での実践項目や目標を立てる時に理念を踏まえて話し合って振返りの機会を持っている。職員からのアンケートも集計して、理念の実践を確認している。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民センターのふれあい昼食会に参加している。市民センターのクラブの方に、踊り、楽器の演奏などを披露していただいている。	市民センターのふれあい昼食会は毎月案内があり、都合がつく時には入居者と一緒に参加している。町内会にも加入し、地域のサークルやボランティアも訪れ、踊りや楽器演奏など2ヶ月に1回程度催しを開いている。市民センターを中心とした関わりが多く、バザーの出展や蛍祭りなど積極的に出向いている。	町内会に加入しているが、行事などの関わりは少なかったので、地域清掃などの町内会活動の情報収集や参加を検討されてはどうだろうか。また、地域に向けた情報発信や地域貢献の試みなどがもたれることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない。御利用者の方と地域に出て行くことで、認知症があっても、適切な支援があれば、普通に生活できるという事を実践しているが、地域の高齢者の役に立っているとは言えない。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催され、運営報告、事故報告、行事、研修報告等を行っている。家族の個人的な参加は難しいので、家族会などの行事の中で、運営報告している。	運営推進会議には地域代表、地域包括、入居者、家族が参加しており、家族行事や敬老会などと同日に行うことで家族参加の機会も多い。状況報告や行事案内などを行い、意見から取組の見直しにもつなげている。議事録は玄関にファイルを置いており、家族にも請求時などに報告を行っている。	家族への開催案内を毎回行うことで、積極的な参加を促してはどうだろうか。また、会議を発展的に運営するために、県の出前講座や関係機関と協力した勉強会などをしたり、地域資源を活用されるのも良いかもしれない。議事録には発言内容も記録することで、より改善に活きる会議として運用されることが望まれる。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に、運営推進会議で事業所の実情を伝えている。	地域包括との連携や相談などは多く、入居者紹介を受けることもあった。主にケアマネージャーが担当し、申請時などに訪問しており、市の介護保険課が運営する協議会などでも質問や関わる機会を持っているが、現状は市町村との関わりは薄い。	運営推進会議の議事録報告や、行事案内などの機会に訪問することで、少しずつ関わる機会を増やし、協力関係が築かれていくことにも今後は期待したい。
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、研修に参加した職員が、勉強会で発表し、講習している。玄関施錠は、必要時行っているが、必要ないときは速やかに解除している。	ユニットごとにある外玄関は基本的には施錠せず、不穏時なども一時的な施錠に留め、出来る時は見守りや付き添いで対応している。拘束に関しての外部研修は年に1,2回参加し、伝達も行い、スピーチロックなどに関しても勉強会で実践目標としてあげて取り組んでいる。原則的に身体拘束をしない方針で、マットセンサーやセンサーチャイムを活用している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修にいった職員が勉強会で発表し、伝達講習をしている。カンファなどで、日常の場面をふりかえり、知らないうちに虐待につながっていないかを話し合ったりする。		
8	（6）	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にいった職員が、事例を通して報告しているが、あまり身近ではないため、詳細は把握できていない。	以前は成年後見制度の利用があり、後見人とのやりとりをしていたが、今はない。毎年権利擁護の外部研修に参加しており、内部での伝達を行う。主に管理者が対応し、必要な時には外部機関とも協力して対応をするようにしている。	職員の理解をさらに進めていくために、説明用のパンフレットや資料の準備などがなされていくことが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するときは、御家族と充分に話をするようにしている。入居後もこちらから声をかけて、不安や疑問がないかを尋ねるようにしている。		
10	（7）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者との日常生活のなかで苦情、不満を聴くようにしている。訴えがない方は観察を行い「嫌なこと」、「望んでること」を察するように努めている。	介護相談員の訪問が月２回と、家族を招いた行事を年に2回催しており、入居者や家族からの意見を聞き取っている。家族にも毎月必ず１回は面会に来てもらうように、支払などを直接行うようにしており、遠方の方でも毎月関わっている。全職員に面会時のコミュニケーションを徹底するよう指導しており、心配事など小さなことでも対応している。家族アンケートも高評価で、満足度も高かった。	
11	（8）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから、職員が気兼ねせずに意見をいえるような、環境作りに心掛けている。	毎月のミニカンファやカンファレンスなどで入居者に関しての情報を全員で共有して話し合っている。勉強会も2ヶ月に1回行い、テーマごとに担当者を決めて取組み、行事やレクに関しても意見を挙げて反映させている。日頃から気づいたことなども管理者に気さくにあげられ、相談事などもし易い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間は定時を基本として、休み希望を取り入れた勤務をつくり、無理なく勤務できるようにする。		
13	（9）	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用は性別や年齢を理由に、採用対象から外していない。男性職員５名勤務している。希望休もとれ、社会参加や、自己実現もできる環境にある。	行事、環境、装飾などの委員会を組織し、毎日のリーダーも持ち回ることで、全員が責任を持って職務に当たるようにしている。年代の幅も広いがお互いに協力し合い、シフト調整なども柔軟に対応している。外部研修の案内もなされ、勤務として参加しており、職員もそれぞれ特技や好きなことをサービスに活かしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	二か月に一度、勉強会で意識して話題にしている。日常の業務で、入居者に対する人権を意識しながら、取り組むようにしている。	入居者に対しての基本的な人権の尊重や、一個人としての接し方を意識して、勉強会も行っている。母体法人の病院では定期的に勉強などをしているが、事業所からは最近は参加できていない。	母体病院で行っている研修の参加や、資料の活用をすることで啓発活動につなげてはどうだろうか。また、市や区などで開かれるイベントや研修会などの情報を利用して、事業所としての取組につながることが期待される。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた研修計画をたて、経験年数に応じた研修をうける機会をつくっている。月に1、2人は勤務として研修に行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入っており、研修会で他のグループホーム職員と交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者もしくは、ケアマネージャーが御本人と話すようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安疑問は解消できるまでじっくりと話をするようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームにすぐに入居できない場合は、周辺のグループホームを紹介している。もしくは、デイサービス、デイケア、老人保健施設などの情報も提供している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者と共に過ごす時間を大切にしている。御利用者を一人の人として接していくようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に、日々のことをお伝えし、意見をきいて、御本人が自分らしさをだしながら生活できるように援助していく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や馴染みのかたがこられた時には、ゆっくりすごしていただくように、配慮している。	個別ケアとして、馴染みの美容室に連れて行ったり、住み慣れた自宅周辺に連れて行くこともある。家族に支援してもらって一時帰宅や外泊、外食やコンサートに行った方もいた。事業所も家でのケアを指導したり、いつでも受け入れることで安心して外出を楽しんでもらっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場合によっては職員が間に入り、御利用者間の円滑なコミニケーションがはかれるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護に関する相談などには応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活が送れるように、生活歴を活用し、趣味、嗜好を把握するようにしている。	基本情報を入居時に聞き取り、細かい情報などは手書きの自由記述で記録に残している。生活歴を活用して趣味や好きなことを活かし、昔の写真なども利用して記憶を呼び起こしている。再アセスメントは4ヶ月に1回行い、主に管理者とケアマネージャーが担当している。	現在自由記述で聞き取っている情報を様式化することで、全体に漏れ無くアセスメントが出来るように検討されてはどうだろうか。また、「私の心の言葉ノート」や、センター方式の活用の検討も合わせてなされることに期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に詳しくアセスメントを記入し、御家族には御本人のプロフィールをかいていただき、生活歴のは把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	療養記録に毎日記録し、連絡ノートで常時職員間で情報を共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望があれば、介護計画にとりいれる。	職員は担当制にしており、担当はケアプランの素案を作成し、ケアマネージャーが監修している。毎月のミニカンファで情報を共有しモニタリングを行い、カンファレンスによって入居者の情報を確認し、4ヶ月毎の見直しにつなげている。面会時などに家族からの意向も聞き取り、日頃の会話などからも意向を汲み取って計画に反映させている。毎日のプラン実施チェックやカンファによって職員もプラン内容をよく理解している。	こまめな話し合いによって、職員間の情報共有を行っているが、介護更新時などには、家族や専門職に参加や意見照会をした担当者会議を開いて、チームケアにつなげてはどうだろうか。また、面会時の家族との話し合いの記録をミニカンファ記録に反映させることも望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	療養記録や、連絡ノートを活用し、報告、連絡、相談を密に行うように心掛けている。また、カンファレンスで確認するようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院のリハビリへの送迎をしたり、御家族の方がこられ、リハビリを行っている方もいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の市民センターのふれあい昼食会参加している。昔からのかかりつけの歯医者が訪問している方もいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人であるが、入居に関して主治医の変更の必要はない。御家族に説明している。	希望するかかりつけ医を選べるが、母体病院を希望する方が多く、今は全員が提携医を活用している。他科受診も事業所が支援し、基本的には看護師が同行して医師との連携を図っている。病院が直ぐ傍にあることで連携もスムーズであり、必要時には往診も行える。家族への報告もまめに行い、安心してもらっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、入居者の健康状態を観察し、何か変化あれば、看護師に報告、相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が主治医と連絡を密にとり、早期退院に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族、主治医と話し合いながら、出来る所までは、対応している。最後の看取りまでは行っていない。状態に応じて最終的には、入院になる。ここは、御家族にも十分に説明している。	以前は難しかったが、今では病院の夜間協力体制も整い、希望があれば対応出来るようになっており、これまでにも看取った例も何件かある。入居時に方針の説明を行い、重度化の際には医師からも説明してもらっている。外部研修にも出られる時は参加し、家族にも協力してもらって看取り支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的には行っていないが、マニュアルを作っていつでもみれるようにしている。また、勉強会で、不定期にとりあげている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は2回/年実施している。その内、1回は)消防に指導をうけている。	毎年2回の防災訓練の内、1,2回は消防署にも立ち会ってもらい、夜間想定訓練も行っている。運営推進会議の際に訓練報告も行う。防災マニュアルによって避難行動を共有し、スプリンクラー等の防災設備や水の備蓄もなされていた。	地域との協力体制も取組みの強化に、地域防災の情報を収集したり、近隣の家族などから参加を呼びかけてみてはどうだろうか。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に応じた声掛けを行っている。職員同士で、よくない声掛けには、注意するようにしている。また、勉強会のテーマにとりあげている。	社協が行う接遇やマナーの外部研修に参加し、伝達も行っている。家庭的な雰囲気の中でも、相手を尊重した働きかけが出来るように気をつけている。職員間のコミュニケーションもとってお互いに意見が言いやすくなるように働きかけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者の表情や様子を観察しながら声かけを行い、本人の希望をきいて介護している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何名かの御利用者は、自分で居室にもどりすごしたり、自分のペースで過ごすように援助している。また、無理のないように居室ですごすなど、声かけを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出支援のときなど、御本人に衣装を選んでもらうようにしている。理美容も、髪型や長さなど、本人や家族の意見を聴くようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の買い物前に、好きなものや食べたいものを聴いて、メニューにとりいれている。また、入居者の状態に応じて、かたずけに参加されている方もいる。	メニュー作り、買い物、調理も職員が交替で担当しており、盛り付けや、片付けなど手伝えることは手伝ってもらっている。調査時の食事も品数が多く、栄養バランスに配慮されていた。行事の時にはおやつ作りをしたり、誕生日には希望を反映させたりしており、変化ももたせている。職員も一緒に同じものを食べており、感想を聞き取っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは職員全員で、栄養のバランスを考えて、メニューを作っている。水分は、食事、おやつ、入浴後摂取している。摂取量の少ないときは、ゼリー、プリンなどで補っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。できるだけ本人にしていただき、できないところを介助している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使いパターンをつかみ、なるべく失禁をへらすようにしている。トイレでの排泄を優先している。	必要な方のみ排泄チェック表があり、24時間の記録をしている。入居者それぞれのサインを読み取りながらトイレ誘導を行い、自立した方には自尊心を損ねないように後から確認している。拒まれる方にもうまくいった事例を共有して、少しずつトイレ排泄が成功するようにもなってきた。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食前体操など、日常的に体を動かすことを取り入れている。また、メニューのなかに、食物繊維を多く含んだものをとりいれている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯に制限があり、希望の時間の入浴はできていないが、入浴そのものは、ゆっくりと時間をかけている。	横長の長方形の浴室はタイル貼りで、シャワーチェアやキャリーを使って入浴している。基本的には昼前くらいから、1日おきの入浴を行い、拒む方には曜日を変えたりして無理強いしない対応をしている。一人ひとりゆっくりと急がずに入浴してもらい、好みのシャンプーや季節の入浴剤などで楽しんでもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後や外出後など、御本人の状態にあわせて、自室での臥床をとりいれている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく内服薬が開始になった時などは、職員に文書で伝えている。服用時、とろみの水分を使ったりして服薬しやすくしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方ができることで、やりがいのもてることをしていただいている。（洗濯物をほす、たたむ、後かたずけ、近隣散歩、外出支援など）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出しているが、入居者の方から希望はでてこない、。そのため、職員で季節に合った外出の計画をたてている。	年に4,5回程度の外出行事があり、季節ごとの花見や買い物や外食などを行っている。個別での外出も支援し、家族に連れだしてもらうこともある。気候のいい時には近隣の散歩なども楽しんでもらい、外出機会をもっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は、おこずかいを所有している。外出時に、おやつを買ったり、職員が食材をスーパーに買いにいくときに、お菓子やくだものを買ってきたりすることもある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御用があれば、家族に電話して、お話をしていただくこともある。また、年賀状や手紙が家族から届く方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度はエアコンをつかったり、自然の風を取り入れたりしている。カレンダーは数字の大きい日めくりや、手作りのものもある。	建物は平屋建てで和モダン風のゆったりとした造りで、事務室を中心として東西にユニットが配置されている。各ユニットに中庭があり、建物前の香月中央公園と共に、自然に囲まれ、緑豊かな環境である。ホールも広く、それぞれの好きな場所で寛げ、小上がりの和室スペースで休むことも出来る。天窓にも障子が貼られ柔らかい光が射し込んでいた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ワンフロアに、台所、食堂リビングがあるので、それぞれ好みの場所で過ごすことができる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までに使っていた家具を自宅から持参してもらっている。また、御家族から、その家具のエピソードなども聴くようにしている。	ライトブラウンの木調でフローリングの床張りの居室は障子窓が備え付けられ、温かみのある落ち着いた空間である。収納スペースも広く、家具はすべて入居者の持ち込みでタンスや食器棚、ソファなど思い思いの部屋づくりをしており、出窓に写真や人形などを飾り付けている。入り口も障子戸で中の気配が伺えるようになっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体は、バリアフリー化されていないので、必要時見守り、介助で対応している。 職員間で、「できること」、「わかること」の情報を共有し、自立支援をめざしている。		